H26年3月 鳥取県立八頭高等学校

	中長期目標 ² 校ビジョン)	(1) 進路指導を充実させ、確かな学力を身につけさせる。 (2) 教育活動全体を通して人格の形成に努める。 (3) 地域における八頭高ブランドを高め、全県に向けコース の特色を打ち出し、魅力ある学校づくりを推進する。	今年度の 重点目標	(1) 八頭高生らしい生活態度の育成 (4) 特色あるコース(探究コース、体育コース)			1120年3月 局収泉立八頭同寺子や文武両道の実践
年 度 当 初			年 度 当 初		評 価 結 果 (3)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目 標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経 過 · 達 成 状 況	評価	改善方策
	基本的生活習慣を整える	・欠席、遅刻(やむを得ない理由を除く)の数がやや多い。 ・制服の着こなし、身だしなみはほぼよい。 ・校内での携帯電話の使用ルールはほぼ守られているが、預かり指導がなくならない。 ・通学マナーについての苦情が数件ある。	・高校生として必要なマナー(校内、校外を含め)が身にている ・コミュニケーションツールの適正な利用ができる ・欠席者の数が減少している。	・頭髪服装指導の定期的な実施 ・関係機関に講師を依頼し、安全教育(交通安全、サイバー犯事 防止等)を実施する ・自己健康管理を促す。	 ・頭髪服装に関しては概ね乱れている様子はない。数名の生徒に頭髪の長		・頭髪服装指導等を通して全職員体制で少数生徒の改善に努める。 ・コミュニケーションツールの適正な使用についての講演会を実施する。 ・基本的生活習慣を見直させ、生活時間の適正化、自己健康管理の意識付け をしていく。 ・保護者にも協力を依頼する。
1) 八頭高	挨拶の励行	・校内全体に挨拶を交わす習慣がほぼ根付いている。・生徒は学年進行に伴って挨拶がよくできるようになっている。	・校内全体でさわやかな挨拶がかわされている	・生徒会の協力を得ながら、自発的な挨拶が交わされるような活動を継続する。 ・職員生徒双方が積極的に挨拶を交わし、校内でのあいさつが。 り一層日常化するよう努める。	なっている。マナーアップ等での保護者の評価も高い。朝のあいさつ運動	В	・挨拶できない生徒もまだいる。教員、生徒の双方のあいさつを自然なもの としたい。日常の中で、執行部のみならず部単位などでの継続的な働きかけ を続けていく。
向生らしい生	教室等の整理・整頓	 教室内ロッカー内、上が乱雑である。 教卓、机の中が整理されていない。 机などへの落書きがまだある。 教室内のごみ箱を撤去しごみの減量化を進めている。 	・教室内が美しく、整理整頓されている。 ・校内施設の破損、落書きがない。 ・ゴミの投げ捨てがない。	・朝清掃の徹底。 ・教科書類の持ち帰りをさせる。 ・ゴミの持ち帰りの徹底。 ・落書き防止キャンペーンを実施。	・監督の指導のもとに朝掃除を行っている。 ・ゴミの持ち帰りを励行し、概ね徹底できているが、一部守れていないと ころもある。 ・教室ロッカーの整理整頓が概ねできている。	В	委員会活動・生徒会活動を含め活発に取り組むことができた。「愛し愛され 運動」など自発的な活動を呼びかけ定着化していく。生徒1人1人が学校で ごみを出さないための啓発活動の強化。
工活態度の育	授業を大事にし、集中させる	・予鈴で着席し、始業合図とともに授業を始める態勢がまだ確立していない。 ・授業中に私語をしたり、寝たりする生徒が見られる。	・予鈴で着席し教材等の準備をして教員の到着を得いる。 ・授業中の私語、居眠りがなく授業に集中している	・授業中に適度な活動を取り入れたり、学び合いなどによって生	・予鈴で着席し、本鈴で授業に臨むという当たり前のことについて、多く との生徒はできているが、確立されていない者もいる。 ・グループ活動、ペア活動などを取り入れる授業が増えつつある。 ・授業に集中させる工夫をしている。	С	
成	人権教育を大事に し、仲間意識を育て る	・多くの生徒は相手の立場を理解し、共感的人間関係を 築いているが、一部自己中心的な言動により他の生徒の 心情を傷づける生徒もいる。	生徒一人ひとりの人権意識を高め、人権を尊重し、差別 に向けて実践力の育成に努めると共に共感的人間関存 業を図る。		・各学年の課題に応じて、人権教育LHRを実施した。 ・「部落解放研究部」は毎週部会を開くことができ、また、校外の活動に も積極的に参加した。 ・公開LHRの実施、講師を招いた人権問題講演会・職員研修会の開催を 通して、研修を深めることができた。	В	・各学年の目標・重点を吟味し、LHRの内容・方法についても、改善にむけてさらに工夫する。 ・「部落解放研究部」の部員を増やし、活動をさらに進展させる。
(2)学力向上	主体的学習態度	・自宅学習時間の学年目標(1,2年生平日2時間以上、休日4時間以上・3年生毎日4時間以上)が達成できていない。 ・課題に頼る学習が中心になっている。	・自宅学習時間の学年目標時間が達成できている。 ・課題のみで終わる学習ではなく、自主的な学習に取りいる。	・家庭学習につながる授業の実施。 ・1,2年次では苦手教科の克服、3年次では得意教科の伸長を意識。 せて学習に取り組ませる。	・自宅学習時間の目標達成の途上にある。 (H25年11月調査結果[]は4月実績 単位:分 1年:88 [110] 2年:87 [103] 3年:179 [114] ・課題に頼る学習が中心の生徒がほとんどであり、自主的な学習に取り組む生徒が少ない。 ・個別面接などを通して、苦手教科を克服する対策や得意教科を伸ばす学 習の取組み方について説明している。		
に向けた積極的な1	授業力向上	・研究授業は実施されているが、回数が少なく事後の研究協議が授業改善に括かされていない。 ・日常的な相互の授業参観と意足交換が少ない。 ・各種研究会、先進校訪問の成果の共有が十分できていない。 ・大学入試問題を題材とした授業研究会を実施。	・授業改革に関する研修、研究会に職員の50%が参加る。	・「高等学校における学力向上のための講師派遣事業」の活用。 してい・授業改革に関する研修への積極的参加を促す。 ・大学入試問題を題材とした授業研究会(教学、理科)の開催。 ・各教科研究授業と合評会を複数回実施する。 ・研究会、先進校訪問等の報告が全職員に行われている。	・講師を招いて小論文指導に関する研修会を7月に実施。 ・研究授業未実施の教科がある。日常的に相互授業参観が少ない。 ・7、8月に実施された予備校による授業力向上セミナーに5教科から各1名ずつ参加した。 ・10月を研究授業月間と位置づけ、全教科で研究授業を実施した。 ・授業研究会(理科、教学)を11月に実施した。 ・アクティブラーニングに関する研究発表会(11月広島県廿日市高校一教学、英語、1月滋賀県草津高校一数学)に参加した。	В	・研究発表会への参加や、授業研究会を実施したことを、今後の授業力向上 に活かしていく。 ・今後も研究授業を実施し、相互の授業力向上、改善につなげる。
取り組み	進路学習・個別面談 による学習への高い 動機づけ	・校外模試全国SS50以上の数が学年進行に伴い減少している。 ・国公立大学志望者数が学年進行とともに減少している。 【1年約70%、2年約60% 3年約50%】	・生徒一人一人に明確な進路目標が設定されている。 ・校外模試について、全国SS50以上の数が学年進行・ 増加している。 ・国公立大学志望者数が学年進行に伴って減少する修 止まる。	・校外模試に向けて、各教科が全国SSの度数分布(累積人数)の目	い。 ・3年間を見通し、また年間の行事と関連づけて進路学習や講演会を計画 的に実施した。	С	・進路学習、個別面談を通して進路目標の設定と学習計画立案を促す。 ・各教科で分析、検討した内容を踏まえて、改善策や新規の取り組みを計画 実施する。 ・個別面接などで、安易に志望を変えさせず目標を高く持たせるよう指導す る。 ・夏季休業期間中の補習について、実施形態を見直す。
(3) 文	学習と部活動の両立	・両立できていると感じている生徒は1年55%、2年60%、3年 56%、全体で58%である。 ・活動終了時間が遅く、帰宅後の学習時間が確保できていな い部活動がある。	・部活動終了後すみやかに帰宅し学習に取り組んでい	・学習時間が確保できていない生徒は部活動参加を制限する。 ・定期的に休養日を設け、学習に専念する時間を確保する。	・学習と部活動の両立ができている生徒が多くない。 ・部活動終了後から帰宅までの時間が長く、生活が冗漫である。 ・部活動での学習指導が徹底できていない。	С	・毎日の生活をけじめあるものとし、それぞれに目標を特たせながら両立を 目指す。 ・部活動終了時間を守り、終了後は速やかに帰宅させる。
践両道の実	自主的な生徒会活動	・朝の挨拶運動、美化活動など生徒会が自主的に計画し実践している。・翠陵祭の節度ある企画、運営ができている。	・挨拶運動、美化活動を率先している。 ・主体的な計画立案と実行が伴っている。 ・翠陵祭が主体的に節度を持って企画、運営されている。	・朝の挨拶運動、落書きなくそうキャンペーンなどの啓発活動を行う。・翠陵祭の企画と運営。・球技大会の自主的な企画と運営。	・挨拶運動、美化活動などを主体的に計画し、意欲的に取り組んでいる。 ・翠陵祭に主体的に参画し、成功させた。 ・鳥取県ケータイ、インターネット利用に関するフォーラムに参加し発表 を行った。	А	・活発かつ積極的な活動を次年度以降の生徒会も引き継がせ、生徒主体の活動を増やしていく。 ・「愛し愛され運動」の参加者を増やす。
完、4)特色な	探究コース ※次代に要求される 学力を身に付けた生 徒の育成	 ・英語、数学の習熟度別授業を実施しているが、上位層の到達度をさらに上げる必要がある。 ・探究ゼミ活動を実施し、課題解決能力を高めている。 ・鳥取大学体験実習、鳥取環境大学での学習セミナーを実施し、学問研究を進め自主学習力を向上させている。 	ての学習が実践できる。 ・全国模試、実力テストにおけるSS60以上の生徒数の	一・能動的な学習を支援する事業(探究ゼミ、学習セミナー等)を実践する。・鳥取大学での体験実習を実施する。・英語、数学の習熟度別授業を実施。	・探究コース行事として、1年生の鳥取環境大学での学習セミナーや2年 生鳥取大学体験実習を実施した。いずれも満足度は90%を超え、進路意識 が高まった。 ・2年生探究ゼミでは、課題を見つけ問題解決に取り組むことができた。 また、最終発表により、1年間の研究の成果と課題を1月28日に校内発 表。	В	・鳥取大学体験実習、鳥取環境大学学習セミナーは今後も継続していく。 ・2年生の探究ゼミでは、生徒が能動的に学習できるよう教員主体から生徒 主体へと少しずつ移行していく。 ・生徒が自主的に行動できるような、コース行事の充実を図る。
進の教育活動の推あるコース(探	体育コース ※魅力ある運動部活動と部活性化の中心 となるリーダーの育成	・競技力の向上により各種上位の大会に多く出場している。・学習への意欲が乏しく、規律ある学校生活が送れていない生徒もいる。・部活動運営の中心となる体育コース生徒が少ない。	・全国大会出場者数の増加。 ・ 授業に集中し、自宅学習ができている。 ・ 規律ある生活が送れている。 ・ 部活動の運営において中心的役割を果たしている。	 「体育コース集会」を1カ月に1回設定し、「体育コース生」としての自 覚を促し、学業・部活動両面において全員で何事にも一生懸命取り組 む体制を整える。 ・学業面においては教科担任・部顧問・担任と密に連携をとり、当たり 前のことができていなければ部活動に参加させない共通認識のもとて 妥協することなく指導に当たる。 		:	・授業をはじめ日々の学校生活が当たり前にできてこそ競技力向上にもつながる。体育コースの存在意義を確立するために一層努力させ続けたい。
(5)スクラム教	八頭タワーの充実 =中高連携の推進	・3中学との中高連絡会(数、英、理)を実施している。 ・夏季休業中に八頭高生徒の母校訪問と合同学習会を開催。 ・3中学校2年生の八頭高ライフ体験を実施。 ・中央中学での出前授業を実施(探究ゼミ理科グループ)	・八頭タワーが充実する。 ・3中学対象の体験授業によって、本校に対する理解がり、中学生の進路指導に生かされる。 ・生徒が自ら考え、その考えを表現したり、行動したりで	実施する。	・中高連絡会(数、英・理)は継続して実施。TT授業に向けて、連絡会・出前授業の回数が増えた。国・社については実施できなかった。 ・1月23日、3 中学対象の体験授業を実施し、高校生の発表を行った。部活動の自由見学など、より高校生活を体験できるものとした。 ・夏季休業中に、生徒の出身中での学習会の補助と中学生に対して先輩としてのアドバイスを行った。 ・体育コース 小高連携事業は、6月13日・18日に郡家西・郡家東小で行い、小学生の指導・交流を経験し、自主的に考え行動することの大切さを学んだ。		・中高連携への意識を持ち、取り組みを継続していく。 ・生徒が、主体的に参加できるように事業の内容を検討する。
教育の充実	大学との連携	・鳥取大学体験実習(探究コース) ・鳥取環境大学での学習セミナー(探究コース) ・鳥取環境大学英語村活動同参加(ESS)	・大学への興味・関心を高め、更なる進路意識の高揚と 意欲の喚起を図る。	鳥取環境大学での学習セミナー(探究コース)鳥取環境大学英語村活動同参加(ESS)	・1年生の鳥取環境大学での学習セミナーでは、大学の施設見学も行い、 大学に興味を持てた生徒もいた。しかし、1日だけでは、少し物足りなさ を感じた。 ・2年生鳥取大学体験実習では92%が満足したと答えており、進路意識 も向上した。 ・鳥取環境大学英語村には、ゼミの活動の一つとして訪問し、テーマに 沿った話を聞いたり交流を行った。	В	・鳥取大学体験実習は継続していく。 ・鳥取環境大学との連携は、継続していきたいが、公立化に伴い、施設が借りにくく、また参加対象生徒のことなど、その内容について検討していく。 ・探究ゼミを進めていく中で、大学からの助言・協力が求めやすくなるようなシステムを作る。
	スクラム教育推進事 業最終年度としての まとめ、そして継続	・11月20日(水)に研究発表会を中央中で開催する予定。	・中高の教員が教科を通して連携し、授業力が向上する	5。 11月20日(水)の研究発表会では、数学、理科、英語の授業を中学校 と高校の教員とで行う(TT授業)。	・教職員の中高連携への意識が高まった。・11月20日に研究発表会を実施した。数学、理科、英語の授業を中学校と高校の教員とでTT授業、さらに、小中高合同の授業研究会を行い、教員の授業力向上を目指した。	А	・指定事業としては今年度で終了となるが、中学校と高校で連携できること については継続して実施する。